

『自主・自立・共有』の部活を目指して



松宮俊介（愛知中学校・滋賀支部）

1. はじめに

教師を志望したのは高校3年の秋、高校野球を引退して自分の進路に直面した時期である。「高校教師になって甲子園に出場したい」と思ったのがきっかけだ。7度目の教員採用試験に合格した。当時、高校の採用がなかったため中学を受験。私は、中学校で野球部の監督として全国大会へ出場したいと決意した。

2. 初任校での野球部

初任校で野球部を受け持ち、早速「県で優勝」を掲げ熱心に野球に打ち込んだ。土日は県上位の野球部と練習試合を組み、厳しい指導をした。そうすることが生徒や親にとって良き指導者であると思込んでいたし、その術しか知らなかった。また、3年目の秋季総体で県ベスト4、夏季総体では県ベスト8になり、より調子に乗った。私は、大学まで野球をしてきた自負と情熱を持って生徒と関われば、生徒は私についてくると思っていた。

3. 本校へ赴任しての野球部

当時の野球部員は15名で、練習も練習試合も活発ではなく、生徒からはやる気を感じられなかった。私はそんな生徒からやる気を起こさせるために、厳しく

叱責したり、鼓舞させたりすることが増えた。しかし、生徒との関係は脆くも崩れ、私自身の活力も消失していった。

4. 先輩教員からのことば

野球に情熱を注いでいた時とは別人のように、日々の部活が嫌になり、仕事をするこすら意欲がなくなった。

ある日、先輩教員に相談すると「お前は部活を通して何を教えたいんや？」と言われ、「野球を上手くさせて勝たせたい」と答えると、「上手くさせてなんぼや？勝たせてなんぼや？」と言われた。言葉つまり、考えさせられる。『うまくさせて勝たせることがあかんのか…』頭のなかで自分の価値観が揺さぶられるのを感じながら、今まで野球で何を教えてきたのかを考えた。生徒に厳しく指導し、自分が経験したことのみを押しつけていたこと、自分よがりになってきたこと、そんなことが頭の中を駆け巡った。それと同時に関わってきた生徒や親の顔が浮かんだ。

『上手くさせてなんぼや？勝たせてなんぼや？』この先輩教員の言葉は私にとって、強烈なインパクトを残した。しばらく、この言葉は私の頭の片隅に居続け、自分が指導に困ったり、勝利至上に陥りそうになったりした時に、『上手くさせる

ことや勝たせることではない』と自分に言い聞かせた。

5. 部活への価値観の変容

勝利至上主義からの脱却によって、生徒の見方感じ方が変わる。私が取り組み心がけたことは、①朝練習は行わない。②短期集中の練習と練習内容の効率化。原則休日は午前練習もしくは午前のみ練習試合。③練習試合は全員が試合に出場し経験を積み、課題を見つける。④明るく楽しく元気よく活動する。この4つの方針で部活を運営した。また、リーダー会議を充実させ、練習や試合内容、チームメイトの思いや苦悩などを話し合わせた。(リーダー：主将、副主将、バッテリーリーダー、内外野リーダー、盛り上げリーダーなど。年によって異なる)

6. 自治力の育成

部活で何を学び、何を習得させ引退させるのか。また、生徒が『野球部に入部して、この仲間と一緒に活動できてよかった』と思えるには何ができるのか。そのことを問いから、野球の楽しさや技術向上はもちろんではあるが、自治力の育成を目指した。上記のリーダー会議から試合のオーダーや戦術、選手交代なども生徒と顧問が合意のもとに決定している。

また、レクリエーションの催しも考え、企画し運営させる。行事はスイカ割大会、クリスマスパーティー、マラソン大会&餅パーティー、球技大会など。司会をはじめ・おわりの挨拶を自分たちで決め進行する。夏季総体前には、保護者にも参

加してもらい決起集会を行う。1年間の振り返りDVDを視聴し、3年生は3年間の活動した思いと夏季総体の決意を、下級生は3年生へ感謝の思いを述べる。

また、最後に、3年生は親への手紙をみんなの前で読み、親へ手紙を手渡す。そのような活動を通じて仲間関係を深めたり、仲間の良さを認めたり、多くの人の温かさを感じさせたいと考える。

7. おわりに

今年、夏季総体でベスト8と、フェアプレー賞を受賞した。生徒が生き生きとプレーしたり仲間のために励ましたりする姿、保護者の大応援団や学校のバックアップなど、多くの協力や支援があった。

今回、3年生と保護者にアンケートを書いてもらった。感謝の思いが綴られている一方、もっと試合に出たかった。息子の試合している姿を見たかったという意見もあった。大会に参加するうえで、全てを補うことは難しい。しかし、若かりし頃の、「自分本位で部活は厳しく耐えて勝利を勝ち取るもの」と考えていたときとは違い、生徒、保護者、顧問が部活の意義を共有し、学校や地域から愛される部活になればと思えるようになった。

現在、私は野球が楽しくて仕方がない。生徒と一緒に投げたり、守ったり、走ったりしている。もう一度野球を楽しみたいと思わせてくれた生徒たちに感謝し、更に部活の意義を深め学んでいきたい。